

統合開発管理プラットフォーム「ProjDepot¹」(3)

方 学芬、土屋 正人

Fang Xuefen, Masato Tsuchiya

Vol.77+でプロジェクト管理者の視点から ProjDepot の利用イメージを紹介しました。今回は、Webアプリケーションの開発プロジェクト(Web01)のメンバである伊藤さんの利用シーンです。伊藤さんには、開発に必要な道具をシームレスに利用したい、という思いがあります。

- 設計書やソースコードの開発履歴を参照したい
 - 成果物をバージョン管理してメンバと共有したい
 - ノウハウやルールを Wiki に書く／読むことで、スキルアップしたい
 - 他のメンバの状況を把握し重複作業を避けたい
 - 夜間自動テストを行い、朝結果をチェックしたい
- ProjDepot がどのように支援できるか、見て行きます。

◆開発環境を利用する



図 1 ProjDepot にログイン

伊藤さんはWebブラウザから ProjDepot にログインすることで、開発に必要な道具を利用できるようになります。プロジェクトのWikiを参照して作業手順を確認し、タスク、

課題、バグなどに対して、プロジェクト全体と自分の担当の状況をそれぞれ把握します(図1~4)。



図 2 Wiki で作業手順を確認

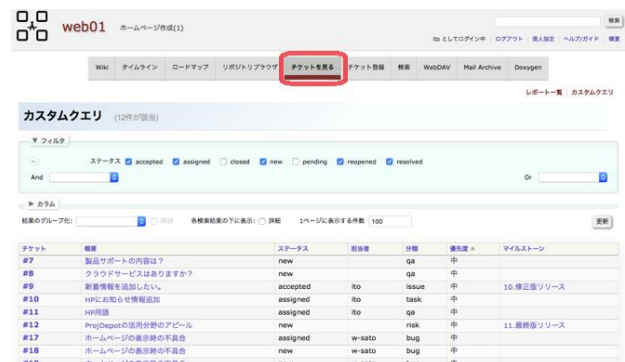


図 3 タスクや課題、バグなどの状況を確認



図 4 プロジェクトの状況を確認

作業の詳細を確認します。作業開始時に自動的にメーリングリストに送信することができます(図5)。

¹ 「ProjDepot」は商標登録出願中です。



図 5 作業詳細を確認して作業開始

◆ 重複作業を避ける



図 6 時系列に更新状況を確認



図 7 変更履歴を確認

作業前に、これまでの変更を時系列に確認し、他のメンバとの重複作業を避けます (図 6)。変更履歴を見て確認することもできます (図 7)。ソースコード修正時には、メーリングリストに通知します。

このように、各種情報はメーリングリストに送付されるので、必要な時にメーリングリストを参照することで、情報の伝達漏れを防ぐことができます。また、メーリングリストのメールから、チケットを作成することができるので、変更理由などを追跡・確認することが容易になります (図 8)。



図 8 メールからチケットを作成

◆ 継続的統合を行う

CI ツール Jenkins を利用して、ソフトウェアのユニットテストとビルドを毎日自動実行します (図 9)。

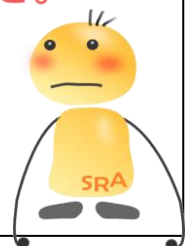


図 9 CI を実施

◆ その他の利用シーン

今回は開発者の ProjDepot の利用シーンを紹介しました。次回は運用担当者、生産管理担当者に有益な利用シーンを紹介します。

夢を。



GSletterNeo Vol. 78+
2015 年 1 月 20 日発行
発行者 ● 株式会社 SRA 先端技術研究所
編集者 ● 土屋 正人

バックナンバーを公開しています ● <http://www.sra.co.jp/gletter>
ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします ● gsneo@sra.co.jp

株式会社 SRA

〒171-8513 東京都豊島区南池袋 2-3-2-8

夢を。Yawaraka Innovation
やわらかいのバージョン